



高輪だより

令和7年度 10月号
港区立高輪幼稚園
園長 佐々木勝世

わくわく ぽかぽか
みんなえがおの
たかなわようちえん



環境を通して行う教育*

園長 佐々木 勝世

去る9月12日、幼稚園では「園内研究会」を実施しました。園だよりやブログでも少し紹介していますが、区立幼稚園では、各園で研究テーマを決めて、毎月研究会を行っています。本園の今年度の研究テーマは「主体的に遊ぶ幼児の育成～遊びの充実に向けた園庭環境の工夫～」です。

子どもたちが主体的に遊ぶためには、「面白そう!」「やってみたい!」と子どもたちの心を動かす《環境》があることが重要です。5歳児の色水遊びでは、目盛りの付いた計量カップや、卵パックが用意してあったことなどが、子どもたちの様々な試しや工夫を引き出したことが話し合われました。5歳児だけでなく、3、4歳児では、どのような環境が必要かについても、講師（学識の方）と共に協議しました。私たち教員は、何年経験を積み重ねても、日々子どもたちの姿から学ぶことがたくさんあります。今後も、研究会や日々の実践を通して学んだことを、翌日以降の保育に役立てていきます。

さて、9月20日には「高輪タイム」を実施しました。保護者の皆様に、子どもたちが園内で活動する様子や、高輪台小学校の体育館で体を動かして遊ぶ様子をご覧いただき、体育館では一緒に体を動かしていただきました。ここで、保護者から寄せられた感想をいくつか紹介させていただきます。

「保育室で、いつもどのように遊んでいるのか分かり、よかったです。家で聞いていたとおりで、納得しました」

「親元を離れた時間における成長や、幼稚園で楽しい時間を送れていることを確認することができ、親としてうれしさや安心感を感じられる、とてもよいひとときとなりました」

「子どもの姿を見るだけでなく、保護者のやっている姿を子どもに見せるというのはとてもよかったと思う。我が子もカッコよかったと喜んでいました」

私たち幼児教育に携わる者は、教員、保護者の姿も、子どもにとって重要な《環境》であると考えています。子どもたちにとってあこがれの、まねをしたいと思える存在でありたいものですね。

*幼児期の教育は「環境を通して行うものであることを基本とする」と、文部科学省が定めています。



5歳児の色水遊び。様々な道具を使いこなして、友達と探究しています。



高輪タイムでは、おうちの方にも体を動かしてもらいました。

高輪幼稚園では、子どもたちの生活の様子や、その中にある「学び」について、積極的に発信しています！

【ホームページ】 <https://takanawa-kg.minato-tky.ed.jp>

【X（エックス）】 <https://x.com/takanawakg>



ホームページ



X エックス